

Column

体操今昔（下）

荒川御幸

広々とした田んぼの中に、天井までの高さが50mの黒々とした円形のドームがそびえ立ち、一瞬、中近東の寺院かと眼をこらしてしまった。

人口わずか 6,500人の小さな都市に、世界56カ国の代表選手が集まって体操世界一を競い合う。しかも、その中から来年のアトランタ・オリンピックの出場国が、男女各12チーム決定するとあっては、体操に多少なりとも関心を持つファンにとっては、まさに血がたぎる出来事だ。大会期間中、約10万人がこの鯖江（福井県）のサンドームに集まりアジア地域では初めての「体操世界選手権」が開催された。規模は大会史上第2位であったと聞く。

今大会は、まさに市民参加の“10点満点”の大会で、素晴らしかったの一言につきる。昭和39年の東京オリンピックの時も感激したが、単一の競技会なのに、この盛り上がりは情の厚い日本人ならではと思った。それは、一町村一チームという分担制で、選手の接待や応援を行ったことが大きな要因のひとつだろう。これはとても新しい発想で、どこの国の選手にも必ず応援してくれる日本人がいて、声援、拍手、旗など様々な工夫をこらして選手を勇気づけていた。

ボランティアも延べ3万人。例えば、道路で小学生が「私は英語ボランティアです」と堂々と外国選手と会話しているのを見て、日本人もインターナショナルになっ

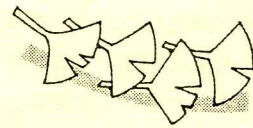
たことをより実感した。

競技内容、その中でも女子のゆか運動のことについて言えば、伴奏がオーケストラに変わってからは、音楽が運動を助長する目的が薄れてしまって、ただ単にバック・グラウンド・ミュージックの様な曲になってしまった。東京オリンピックの時は、有名な指揮者、山本直純さんが伴奏者として競技に参加、その他、当時、芸大教授だった宅孝二さん、シンセサイザーの富田勲さん、作曲家の服部克久さんらがアドバイザーとして協力してくださり、選手の振りが一層生きる様に、各選手の個性に合わせた独自の作曲や編曲で伴奏曲が作られた。今回は既成の名曲をつぎはぎした伴奏が多く、動きの良さは残像として残るが、曲との合致の妙味が欠けていたのが残念だった。

日本女子は、普段の練習を数段上回る出来で、団体予選を10位でクリアできた。これも、アジア、それも日本の地で初めて開催された世界選手権大成功の一因を担ったと評価出来る。

過去の大会も含め、選手やコーチ、審判員として何度も国際大会に参加してきたが、自分は日本人なのだと思う気持ちと、日の丸を国旗だと思ふ誇らしさで胸が一杯になるのは、今も昔も同じである。

〈あらかわ・みゆき〉 WSFジャパン会員、東京五輪体操女子チームリーダー、体操国際審判員



Let's Play Sports!

ランナーズはスポーツする女性たちを応援するサポーターです。未来へ向けてゆとりある健康生活を送るために、雑誌やイベントを通して“スポーツする心”の輪を広げています。あなたも一緒に楽しんでみませんか!!

- 出版物：月刊「ランナーズ」／月刊「トライアスロンジャパン」／隔月刊「ファンライド」／単行本「ゆっくり走れば速くなる」佐々木功・著／ほか各種書籍
- 1996年冬～春の自社イベント：2月…合歓の郷ハーフマラソンin浜島、デュアスロン大会in国営昭和記念公園／3月…サイクルエンデューロ広島ステージ／ほか

株式会社 **ランナーズ** 〒153 東京都目黒区東山2-6-4

TEL. 03-3714-2641 FAX. 03-3714-5660



95.9.17/クロスカントリーin湯沢